

【出席者】(順不同)

●ティーンズ・プロモーション部

安部 幸介

●ネットワーク応用技術研究所 先端ネットワーク研究部

小寺 康平

●アソウ・ヒューマニティーセンター マーケティング事業部

濱崎 舞子

●明和製作所 技術課

村上 善大

(司会 日刊工業新聞社西部支社 業務部 松田充史)

ネットワーク 小寺 康平さん



「大きな仕事出来るのではという期待」

明和製作所

村上 善大さん



「3年間は我慢」

開気ではなかったですね。
濱崎 面倒だと思っるのは資料づくりですね。苦手なのでいつも時間がかかってしまいます。
安部 スケジュールの部分では、自分はまだ最終的な決定権がないので、上司に伺いをたてる必要がありますよね。学生の時みたいに自分の都合に合わせて、前目までに徹夜してでもつくればいいやというのとは違って、まだそのギャップから抜け切れていないです。
――働く前の仕事に対するイメージの違いやギャップを感じたことはありましたか。
村上 私の会社は電動バイクや四輪の仕事をやっているんですが、最初はそちらをやりたいなと思っていました。しかし入社してみると、実際に担当したのは、工具用のモーターの仕事でした。最初はこれやるのか！と思うんですが、やり始めてみると愛着がわき、楽しいと思えるようになりました。特に実際にでき上がったものをみせられたときには、ああこういう物ができたんだと感じられてうれしいですね。

濱崎 私は営業を担当しています。飛び込み営業をやったのですが、ほとんどがお断りです。最初は「こんなにも断られるのか嫌がられるのか」、慣れるまでに時間がかかりました。1年目の時で話を聞いてもらえたのは、100件中5件くらいだったでしょうか。仕事を投げずに踏みとどまれたのは、先輩が支えてくれたからです。先輩や上司のためにも、という思いで頑張りました。やがて「100社行つて90数社断られても、何社かは聞いてくれる企業がある」と思えるようになりました。
安部 ももとのイメージについても、イベントの仕事を知らなかつたのでギャップはなかつたです。イベントの準備に当たってはあらかじめ決められたサイクルにのって進めるのですが、最初はスケジュールが把握できない、当たり前のことができないことに歯がゆさを感じました。一方で上司の段取りのいい仕事ぶりをみて、自分もそうありたいと思っています。
小寺 大学の専門は無線通信の研究で今の仕事とは違分野なんです。インフラの話でなくとも、ネットワークを使ったりアプリケーションなどの知識やスキルを身につけていければ、新しいイノベーションを起こせるのではと思っています。一つのことを極めていきたいという人もいます。自分が、それだけではやっていけないと思っています。いろいろな分野に携わることで、自分を成長させていこうと考えています。
――働く前にはいろんな選択肢があったかと思いますが、なぜ今の会社を選んだのですか。
小寺 今の会社は大学と組んでプロジェクトをやっており、

福岡にあるという点にひかれまして。先輩にも大企業の方がいて身近に感じていましたが、もっと視野を広げて、実社会に近いところでやっていきたいと思っていました。
大企業の研究室へインターンで行ったことがあります。そこでは研究した物がなかなか世に出せないという話がありました。今の会社では自分の専門分野がやらせてもらえるかどうかは分かりませんが、プロジェクトリーダーになれるような大きな仕事もできるのではという期待もありました。
濱崎 就職活動でエントリーしたのは80社くらいです。最終的に受かったのが今の会社でした。営業を選んだのは、いろんな人に会って自分を成長させたいということ。また人材派遣の会社は雇用の拡大や社会貢献にものすごく力を入れているので、出身が長崎ですので、九州、福岡で働きたいというのもありました。大手企業に入れば、というのも正直なところありませんが、面接などを通じて今の会社の良さを感じられました。
安部 デザインの勉強の仕事をしていたので、デザイン事務所や広告代理店を受けていました。そんな時にインターンで今の会社でお世話になりました。飲み会にも誘ってもらってイベントの楽しさを知ることができ、会社の人にも誘っていただいたので決めました。

していたので、最初はトヨタ系の企業など車関係の仕事を目指してました。そんな時に電動自動車をやっているということで今の会社を見学に行きました。四輪だけでなく、いろいろなことをやっているのを知りました。入社試験を受けたのは5社くらいです。あつという間に終わった感じですね。
――今の職場でやっていきたいことや、キャリアアップについての考えを聞かせて下さい。
安部 もともと専門学校でデザインを勉強していましたが、やはり最終的にはつくる側、デザインの仕事をやってみたいと思っています。先々に何のデザインがやりたいのかなど、やりたいことを明確にするためにもいい意味で今の会社を利用したいと思っていますね。
将来については悩んでいる段階です。今の仕事がすごく楽しいとなれば、ずっといるかもしれないし、個人事務所が持てたら楽しいとか。夢の話ですけれど。

小寺 私の場合は大学の知的財産などを使って何かできないものだろうか、ということを考えますね。プロジェクトリーダーとして、いろいろな案件に携われば興味を持てる分野も見つけられるかと思っています。自分が学んだことの橋渡しのようなことをやって、いつかおもしろい化学反応を起こしたいですね。

村上 今はやっている仕事を3年間やろうと。そこで今のままでもいいか、別の道にいかないのを見極めていこうと思います。別の道に進むのであれば、車関係には就きたいなと思いますけど、または全く関係のない仕事に進むかもしれませんね。
濱崎 会社がイヤとか、転職したいというのはありません。5年後10年後はもしかしたら結婚、出産をしているかもしれないんですが、出産しても働く人もいますし、仕事をしたいという生活に張りも出ないと思いますので続けていきたいというのはあります。職種にかかわらず、雇用を拡大できるようなお手伝いができればと思っています。
――本日はありがとうございました。

今を生きる～中小企業を選んだ若者たち

特別座談会

――まずは自己紹介を、あわせて今の会社に入ってきたかと思つたことはありますか。
小寺 仕事はIT系の開発や大学と連携した事業などを手がけています。もともと私は大学院で研究をしていましたが、もともと実社会に近いところで活躍したいという気持ちがありました。その思いに近い会社に入ることができました。またミレーンク」などと無視されずに検討していただけるのはやりがいがあります。

先輩とも距離が近いのも良い点です。
安部 イベントの企画運営のチームに所属し、集客のための催しや販売促進イベントなどの企画運営を行っています。私自身、入社するまでイベントのことは全然知りませんでした。語弊があるかもしれませんが、イベントの仕事は自分たちの考えたこと、やりたいことをお客さまのお金を使って実現でき、それによってお客さまを満足させることが大前提です。現場ごとに内容が違っていて、いろいろなことが経験できて楽しいです。
――逆に社会人で煩わしいなと思つたことは。
小寺 スケジューリングが難しいですね。納期に対して設定をしなければいけません。今は難しさが、もどかしさがあり、すね、でもそれに対応しないと、信用が得られなくなりますからね。
村上 飲み会です。基本的ににお酒を飲まないで、積極的に参加することはありませんでした。ただ、行ってみたら面白い、がやがやと、嫌いな雰



「いい意味で会社を利用したい」



「面接で会社の良さを感じた」

これからの活躍に
乞うご期待!

都心に近い。アジアが近い。未来に近い。

マリメッセ福岡



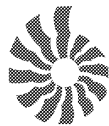
福岡国際会議場



福岡国際センター



福岡空港、JR博多駅から至近のアクセス。アジア各国へ向けた海の玄関、博多港国際ターミナルに隣接したゾーンに3つのコンベンション施設が集結し、多彩な可能性がひろがります。アフターコンベンションは、玄界灘の幸をはじめとするグルメや、都市型のエンターテインメントも充実。福岡は、世界の人々を魅了することができるコンベンションシティです。



一般財団法人 福岡コンベンションセンター

http://www.marinemesse.or.jp

〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1 TEL:092-262-4111 FAX:092-262-4701



福岡空港から約20分 | JR博多駅から約15分 | 博多港国際ターミナルから約3分